

1. 研究課題名：巨大地震による震災廃棄物に関わる社会リスクをふまえた
持続可能な適応策評価

2. 研究代表者氏名及び所属：
北詰 恵一（関西大学・環境都市工学部）

3. 研究実施期間：平成 27～29 年度

4. 研究の趣旨・概要



我々は、人口減少と都市化の時代を迎えている一方で、南海トラフ地震への対応も迫られている。その中で、巨大地震による廃棄物の処理は、その量・質・分布の想定が各地域特性によって異なり、不確実な状況変化にも柔軟に対応できる仕組みを必要としている。

本研究は、これらの社会変化を社会リスクと捉え、復興段階別の廃棄物発生場所と量の推計モデル、輸送計画モデル、処理適地評価や資源化技術などを開発し、廃棄物発生量の減少と復旧日数の短縮を実現しつつ、平時と災害時の双方に効果のある適応策を、評価・提案することとしている。

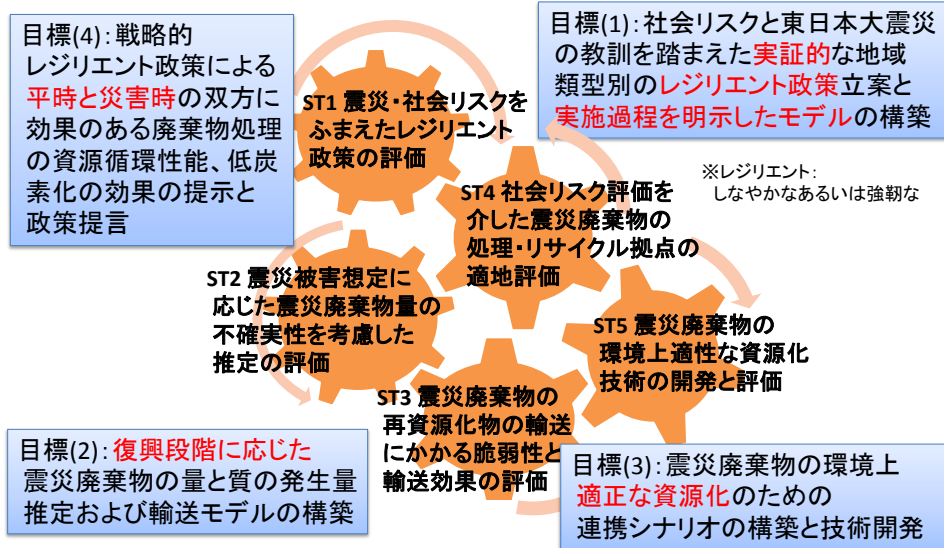
これにより、各地域の状況に即した効果的な災害廃棄物処理政策の立案と実施に貢献することが期待される。

5. 研究項目及び実施体制

- ① 震災・社会リスクをふまえたレジリエント政策の評価（関西大学）
- ② 震災被害想定に応じた震災廃棄物量のコンティンジェント推定の評価（関西大学）
- ③ 震災廃棄物の再資源化物の輸送にかかる脆弱性と輸送効果の評価（関西大学）
- ④ 社会リスク評価を介した震災廃棄物の処理・リサイクル拠点の適地評価（慶應義塾大学）
- ⑤ 震災廃棄物の環境上適正な資源化技術の開発と評価（関西大学）

6. 研究のイメージ

【研究目標】



【基本的考え方】

